

CASBEE-建築(新築)2016年版  
倉吉病院増改築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.7</b>	0.15	<b>2.4</b>	1.00	<b>3.6</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1.2 遮音		<b>4.4</b>	0.40	<b>2.5</b>	0.40	
1 開口部遮音性能	待・診・病室)サッシ遮音性能T-2以上	5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	診)1F 診察-8 Dr-45	4.0	0.60	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音	待・診)床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板	<b>4.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>2.9</b>	1.00	<b>2.6</b>
2.1 室温制御		<b>3.2</b>	0.50	<b>3.4</b>	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	待・診・病室)断熱材を強化し、外皮性能を向上	4.0	0.25	4.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		<b>2.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式		2.0	0.30	2.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.1</b>
3.1 昼光利用		<b>3.2</b>	0.30	<b>5.0</b>	0.30	
1 昼光率	病室)1.25%以上	2.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備	待)ハイサイドライトの採用、病室)光庭の計画	5.0	0.40	5.0	0.40	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>1.0</b>	0.15	
3.4 照明制御	病室)手元スイッチにより各ベッド単位で制御可能	<b>3.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.0</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		<b>3.5</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.38	
1 換気量	待・診)各法を満たす換気量の1.2、1.4倍以上 病室)各法を満たす換気量の1.2倍以上	4.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	病室)汚染源のない方位、かつ6m以上離れて設置	3.0	0.50	5.0	0.33	
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.6</b>	0.40	<b>4.8</b>	1.00	<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性	病室)個室10㎡/床以上、多床室8㎡/床以上	-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.30	<b>4.5</b>	0.40	
1 広さ感・景観	病室)天井高2.5m以上	-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	待・診・病室)内装に配慮した計画	5.0	1.00	5.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.8</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁:タイル貼 40年	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・給湯・排水の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電設備の設置、受電設備の二重化等	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	通信の多様化、有線電話、ケーブルテレビの採用等	5.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり	待・診)平均階高 3.9m以上、病室)基準階階高 3.7m以上3.9m未満	5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	待・診)壁長さ比率 0.1以上0.3未満	4.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		壁面位置の後退、設備目隠しにより周囲からの見え方に配慮、既存樹木を保存等	4.0	0.40	-	-	4.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	施設の一部を地域に開放、中庭や光庭の計画、防犯カメラの設置等	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.4</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> = 0.78	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	光庭による自然採光の利用	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.82	2.9	0.50	-	-	2.9
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
1.1	節水	節水コマ、自動水栓、省水型機器を主要水栓の過半に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水の消雪・散水利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	陶磁器質タイル(外壁仕上)、断熱材(スラブ下断熱)、ビニル床材(床仕上)	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+LGS+仕上とし躯体と仕上材が容易に分別可能、可動間仕切の採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		運用時のLCCO <sub>2</sub> 排出量を低減	3.6	0.33	-	-	3.6
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪・駐車スペースの確保、管理用駐車スペースの確保、駐車場への導入路を複数計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量の推計、屋外のゴミ庫、屋内の分別回収の計画等	4.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明の設置なし	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	